

「グローバルゼーションと労働の未来」

連合総研創立10周年記念 国際シンポジウム報告

報告者

J・エバンス (OECD労働組合諮問委員会 (TUAC) 事務局長)	陳 継盛 (文化大学労工研究所所長) イマニェスハイゲル (チュラロンコン大学教授)
J・フォー (米経済政策研究所 (EPI) 所長)	和泉 孝 (国際自由労連アジア太平洋地域 組織 (APRO) 書記長)
J・ホフマン (ハンブルグ経済・政治大学教授)	栗林 世 (連合総研所長)
R・ホフマン (欧州労連研究所 (ETUI) 所長)	初岡昌一郎 (姫路獨協大学教授)
S・パーシー (国際自由労連経済社会政策局長)	井上 甫 (創価大学教授)
朴 榮基 (西江大学産業問題研究所所長)	

本書は、1997年12月3日から5日にかけて上野、池之端文化センターにて行われた、連合総研創立10周年記念シンポジウムのうち、第2日目に行われた国際シンポジウムにおける各報告者の発言内容と、提出論文を研究報告書として編集したものである。

連合総研創立10周年記念シンポジウムは、直面する課題、労働組合の未来等に関して、幅広くその見解を交流するとともに、21世紀へ向かう労働組合運動の方向を探るべく、「労働の未来」をメインテーマに掲げて開催した。特に、当シンポジウムの第2日目は、経済のグローバル化が世界の社会的側面あるいは労働に新たな試練と課題をもたらしていることを踏まえて、国際社会における労働問題に焦点を絞り国際シンポジウムとした。

第1部「グローバル化の中の労働組合の課題」では、欧米の労働問題に焦点を当て、欧州の高失業、アメリカの所得分配の歪み、南北格差の拡大、環境問題への対応など、諸課題への取り組み、さらに新たな国際協力のあり方を、国際労働組合及び関連シンクタンクのトップリーダーを迎えて探った。

第2部「アジアの労働社会の課題」では、グローバル化の中で、アジア経済の興隆が目立ち、その中で韓国をはじめ労働運動の新たな展開が見られるとともに、地方では政府による抑制・介入も目立っている現状を踏まえ、アジア各国の研究者を迎えて、アジアの社会的側面の発展をいかにして図るかを考えた。

各報告者の報告を通じて、国際労働運動の現状や展望、問題点をグローバルな視点から捉え直すことができ、連合をはじめとしたわが国労働運動のさらなる前進の糧を得ることが出来たと考える。

目次

第1編 国際シンポジウム記録	第2編 国際シンポジウム 提出論文
第1部 「グローバル化の中の労働組合の課題」	第1部 日本語訳
第2部 「アジアの労働社会の課題」	第2部 英文
国際シンポジウム総合コメント	連合総研 国際シンポジウムの意義と主な論点 — グローバル化の中の 「社会的側面」のリスクとチャンス —